

第9回国際協働プロジェクト

The 9th International Student Action Project

【ISAP09】

事業報告書



日本国際学生協会

Since 1934

日本国際学生協会

International Student Association of Japan

目次

第1章 国際協働プロジェクト概要	
実行委員長挨拶	P04
実行目的	P05
第2章 第9回国際協働プロジェクト概要	
第9回国際協働プロジェクト概要、協力団体	P07
年間スケジュール	P08
第9回国際協働プロジェクト日程	P09
実行委員・スタッフ名簿	P11
第3章 プロジェクト報告	
国内活動概要	P13
事前勉強会	P14
学童交流会	P16
反省会	P18
報告会	P20
国内活動総括	P22
国内活動写真	P23
国外活動概要	P25
フィールドワーク総括	P26
・Dumpsite Tour	P27
・City Tour	P29
協働活動総括	P31
・Nutrition Lecture	P33
・Weekend Activity	P35
・Work 活動	P37

交流活動総括	P40
・ School Activity (食育)	P41
・ Homestay	P45
・ Friendship Night	P47
国外活動写真 (フィールドワーク)	P50
国外活動写真 (協働活動)	P51
国外活動写真 (交流活動)	P52
 第4章 参加者の感想	
実行委員の感想	P54
参加者感想①	P55
参加者感想②	P57
 第5章 実行委員長総括	
実行委員長全体総括	P61
 第6章 第9回国際協働プロジェクト予算書及び決算報告	
第9回国際協働プロジェクト予算書	P63
第9回国際協働プロジェクト決算報告	P65

第 1 章

国際協働プロジェクト概要

実行委員長挨拶

実行目的

実行委員長挨拶

ISAP の活動に共感し、ご支援、ご協力いただきありがとうございます。心からの感謝とともに、2018 年度の活動報告書をお届けいたします。

本プログラムは、沢山の方々のご支援によって成長させていただき、本年 9 回目の活動を無事終了することができました。母団体である日本国際学生協会 (I. S. A.) の全国代表者をはじめ、会員の皆様。現地での活動を終始支え、共に働きかけてくれた LOOB スタッフ・キャンパーの皆様。私達日本人を温かく家庭へ受け入れてくださったホームステイ先のナナイ (Host-mother)、タタイ (Host-father)。フィリピンの子供と日本の子供とを繋げる活動に協力してくださった団欒長屋の湊上様および岡山市立三門小学校わかくさ保育の皆様。私達の活動に共感し、ご支援してくださった共立国際交流奨学財団の皆様。他団体との繋がりを作ってくださった LOOB JAPAN の皆様。本プログラムに関わり、支えてくださった皆様に感謝の意を表します。

世界は日々変化し続けています。同様にフィリピンも、9 年前に比べると大きな発展を遂げてきました。しかし、私たちが毎年訪れているイロイロ市には、ゴミ山付近で危険にさらされながらも沢山の家族が暮らしていたり、水不足が発生したり、貧困が故に学校に通えない子供がいたり、まだまだ問題が残っています。

私達は、活動をご支援いただいている皆様への感謝を心に刻みつつ、子供たちが豊かな生活を送られる世界を目指し、協働活動を行い続けています。私達の活動は、社会や世界から見れば、ほんの小さな一步に過ぎません。しかし、「力になりたい」「現状を知りたい」と行動を起こし、そこでの経験を沢山の人に伝え、このような思いをまた別の人に連鎖させることこそが、私達に今出来ることであり、使命だと考えています。ISAP の活動を通して得た仲間や経験を将来的に価値のあるものだと信じ、社会に還元できるように努めていきたいと思えます。そして、イロイロ市の人々が平和で自由な日常を送られることをお祈りいたします。

ここでは、皆様からのご支援により実施したプログラムの具体的な内容をご報告しております。どうぞ一読くださいますようお願いいたします。そして引き続き ISAP にご興味を持っていただければ幸いです。

2018 年 11 月 第 9 回国際協働プロジェクト (ISAP09) 実行委員長 渡邊 果歩

実行目的

この国際協働プロジェクト（ISAP）は「世界平和達成への貢献」を理念に掲げ、その為に必要な活動を様々な御協力者と共に働きかけながら作り上げ、実行することを目的とした国際協力活動を行うものです。

日本国際学生協会（I. S. A.）は1934年に発足した団体です。そして、第2次世界大戦という悲惨な体験によって、当協会は世界平和の重要性への認識を得ました。「世界平和達成への貢献」という理念に基づいて行われる私達の活動は、既に84年の時を経ています。その中での活動の一環として、私達は64回の国際学生会議を開催しています。この会議に参加した学生一人一人の心の中に「世界平和達成への貢献」という理念が確実に根付き、人類の相互理解への寄与は、大いに価値のあるものであると自負しています。しかしそれと同時に、私達は学生としての「行動」の重要性を痛感しています。64回それぞれの会議の中で感じたことや考えたことを、行動により実社会に還元しなければならないのです。つまり、世界平和達成へのより大きな貢献の為に、議論の枠を越え、平和へ向けたより主体性を伴った行動が必要不可欠なのです。

今までに足りなかったこの「行動」を推進していく本プロジェクトにおいて、私達は次の実行目的を掲げることと致しました。

『自己の成長に伴う他者の成長への貢献』

「世界平和達成への貢献」という壮大な理念のもと、私達は全力で「学生に何ができるのか」という問いかけに立ち向かい、この問いかけに対して私達は成長を志向します。なぜならば、将来を担う私達学生が自らの手で課題を見つけ解決策を模索し実行に移していくことで得られる成長が、世界平和達成への大きな推進力になるということを I. S. A. の長い歴史の中で実感してきたからです。本プロジェクトを実践していく中で、私達の活動に関わる全ての人が、私達の活動から何らかのきっかけを得てさらに成長し、彼らからもらう刺激を糧に私達もさらに成長する。そうして相互成長を促進し影響の輪を広げていくことによって、世界平和達成への基礎を築いていくのです。私達学生は今すぐ社会的に大きな影響を与えることはできませんが、10年後20年後を見据えた時、私達の活動が着実に社会の大きな財産となっていると信じます。

私達個人の成長が ISAP という組織の成長に繋がり、それが他者への成長に繋がる。そうして学生一人一人の小さな力が世界平和達成への大きなうねりとなることを切に願います。そのための第一歩を、私達は踏み出したのです。

第 2 章

第 9 回国際協働プロジェクト概要

第 9 回国際協働プロジェクト概要、協力団体

年間スケジュール

第 9 回国際協働プロジェクト日程

実行委員スタッフ名簿

第9回国際協働プロジェクト概要、協力団体

構成 国内活動：「事前勉強会」、「交流会」、「反省会」、「活動報告会」
 国外活動：「フィールドワーク活動」、「協働活動」、「交流活動」

実行日 国内活動：2018年2月～2018年11月
 国外活動：2018年9月3日～9月15日

場所 国内活動：平尾記念セミナーハウス、豊中市国際交流センター、
 団欒長屋（学童）

国外活動：フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市

ねらい 協働を通じた実践により自他共に成長し、広い視野をもつこと

参加人数 17人（国外活動不参加1名より実質16名）

協力団体 NGO 団体 L00B、団欒長屋・岡山市立三門小学校わかくさ保育（学童）、
共立国際交流奨学財団

後援 外務省

年間スケジュール

12月 実行委員長承認式

1月 引継ぎ会

2月 電話による打ち合わせ

3月 第1回 実行委員事前勉強会

4月 第2回 実行委員事前勉強会

5月 第3回 実行委員会議

6月 第4回 実行委員会議（スタッフ選考）

第1回 実行委員・スタッフ合宿

7月 第2回 実行委員・スタッフ合宿

8月 第3回 実行委員・スタッフ合宿、学童交流会、ISAP OB・OG会

9月3日～9月15日 国外活動

10月 反省会、活動報告会

11月 第10回国際協働プロジェクト実行委員長決定

第9回国際協働プロジェクト日程

Date	Activity	Location
9月3日 Day1	日本出国 マニラ経由イロイロ着 L00B share house 着	L00B share house
9月4日 Day2	Share house でのルール確認 Dumpsite Tour (ごみ投棄場) Dumpsite 家庭訪問 Child minding	L00B share house カラフナン Dumpsite
9月5日 Day3	ILOILO City Tour ホームステイのルール確認 活動への目標、目的の設定 (個人で設定し、全体に発表)	ILOILO City L00B share house
9月6日 Day4	オープニングセレモニー Weekend Activity のリハーサル	Barangay Navais Base (ナバイス村での活動拠点) Homestay1日目
9月7日 Day5	午前; Work 活動 午後: School Activity 1回目	Barangay Navais Base ナバイス小学校 ホームステイ2日目
9月8日 Day6	午前: Work 活動 午後; Weekend Activity ホームステイ	Barangay Navais Base ナバイス小学校 ホームステイ3日目
9月9日 Day7	Sunday Homestay (ホームステイ先の家族と過ごす日)	ILOILO City ホームステイ4日目
9月10日 Day8	午前: Work 活動 Nutrition Lecture 午後: School Activity 2回目	Barangay Navais Base ナバイス小学校 ホームステイ5日目
9月11日 Day9	午前; School Activity 3回目 Nutrition Lecture	Barangay Navais Base ナバイス小学校 ホームステイ6日目

9月12日 Day10	Work 活動 Friendship Night の準備 Friendship Night	Barangay Navais Base ホームステイ 7 日目
9月13日 Day11	クロージングセレモニー SM でのショッピング LOOB share house 着	Barangay Navais Base SM ショッピングモール LOOB share house
9月14日 Day12	プールでのメンバー同士の交流	Sea Garden Resort (ホテルのプール) LOOB share house
9月15日 Day13	イロイロ発 マニラ経由日本帰国	

実行委員・スタッフ名簿

<実行委員一覧>

注 ISAP06: 第6回国際協働プロジェクトの略称

ISAP08: 第8回国際協働プロジェクトの略称

役職	名前	大学・学年	備考
実行委員長	渡邊果歩	岡山大学 2 年	ISAP08 スタッフ
総務部長	長谷川麟	岡山大学院 1 年	ISAP06 実行委員
財務部長	山澤慧士	法政大学 2 年	国外活動不参加
企画部長	栗原拓也	関西大学 4 年	ISAP08 スタッフ
広報部長	市川早紀	南山大学 3 年	ISAP08 スタッフ

<運営スタッフ一覧>

名前	大学・学年
中春乃	ノートルダム清心女子大学 3 年
宇田川稚菜	京都女子大学 2 年
加藤有梨沙	南山大学 2 年
桐畑紗里花	関西学院大学 2 年
新田朱梨	関西大学 2 年
植田七菜子	岡山大学 1 年
笠田朋実	神戸松陰女子学院大学 1 年
河瀬理帆	川崎医療福祉大学 1 年
榊里奈	関西学院大学 1 年
中井颯人	甲南大学 1 年
中村梓	ノートルダム清心女子大学 1 年
西久保あゆみ	北九州市立大学 1 年

第 3 章

プロジェクト報告

国内活動概要

事前勉強会

学童交流会

国外活動報告会

国内活動総括

国内活動写真

国外活動概要

フィールドワーク総括

Dumpsite Tour, City Tour

協働活動総括

Nutrition Lecture, Weekend Activity, Work 活動

交流活動総括

School Activity, Homestay, Friendship Night

国外活動写真

国内活動概要

期間：2017 年 12 月～2018 年 11 月

活動内容： 1. 事前勉強会
2. 学童交流会
3. 反省会
4. 報告会

事前勉強会

文責：加藤 有梨沙

1. 活動の目標目的

国外活動前に、フィリピンや国際協働、国際協力、提携団体についての知識を身に付け、国際活動の準備を行うこと。また、メンバー間の友好関係を築き、協働を通じた実践により、自他共に成長する。

2. 活動内容詳細

日程：2018年6月～2018年8月(月に一度開催)

活動場所：甲南大学平生記念セミナーハウス

活動内容：それぞれのメンバーの間で活動のとらえ方に違いがあると、活動を行っていく中で、方向性の違いが生じるため細かい活動に対しても目標や目的を定めていった。事前勉強会の主な活動は、アイスブレイク、英語企画、勉強会、国外活動の準備の4種類に分類できる。

・アイスブレイク

全国各地から学年の異なるメンバーが集まります。そのためメンバーの間の壁を取り除き、より良い雰囲気や円滑にコミュニケーションがとれるよう、毎回の集まりの前にアイスブレイクの時間を設けました。

・英語企画

国外活動を行うフィリピンでは英語が主な言語となるため、英語力をつけるための企画として行いました。英語で自分の意見を述べ、物事を説明・把握できるようにすることが必要となるため、それらの点を意識して行いました。また、英語企画を通じてより積極的に英語を使えるようになることを目標として行いました。

・勉強会

参加するメンバーでフィリピンへの渡航経験があるメンバーが少なかったため、文化や社会をはじめとしたフィリピンについての勉強をしました。食や教育、歴史などの様々なテーマをメンバー全員で分担して調べ、共有をしました。また、現地の状況や国外活動で訪問するダンプサイトについても情報を共有しました。事前に現地についての知識を身につけることで理解を深めることができました。

・国外活動の準備

企画の項目ごとにグループをつくり、それぞれのグループにおいて活動についての目標目

的を定め、話し合いを進め、準備・練習を行いました。企画の項目としては、現地の小学校で行うレクチャーの練習、フィリピン人メンバーに渡すプレゼントの準備、現地で作る日本料理の決定、披露するダンスの練習がありました。

3. 反省、改善点

月一回の合宿の他に LINE 通話の機会も設けていたため、実行委員とスタッフ、そしてグループ間の共有はできていたと思います。しかし、フィリピン側の実行委員との連絡は少なかったため、現地の詳しい状況を把握するという点が不足していたと感じました。特に、天候が雨になった場合にどう実行するかということや別のプランを考えておき、現地の方々と事前に確認を取っておくということも必要であると感じました。

4. 感想

役割や活動項目によってグループをつくって進めたため、活動ごとの内容が決めやすく、共有も円滑に行うことができました。

事前勉強会を何度も重ね、LINE 通話での話し合いの機会を設けたことで、スタッフそれぞれの意見を反映できる機会が多く、納得した意思決定ができたと思います。また定期的に準備や話し合いの場を設けることは、メンバーのモチベーション維持につながっていると感じました。その分決定や準備に時間を有し、困難もありましたが、時間をかけ十分な準備・練習を行ったことが現地で活動を行う上での自信につながり、より円滑に国外活動が行えました。事前勉強会は国外活動を行うにあたりとても意義のあるものでした。

学童交流会

文責：桐畑 紗里花

1. 活動の目的目標

フィリピンの子供たちと交流する前に、日本で子供との接し方を学ぶことやフィリピンの子供たちと日本の子供たちをつなげること。

2. 活動内容詳細

日程：8月18日 団欒長屋、7月から8月 わかくさ保育

活動場所：団欒長屋、岡山市立三門小学校わかくさ保育

活動内容

School Activity の日本文化の班が代表で、団欒長屋さんで学童交流会に参加しました。School Activity の授業で行うことを予定していたうちわ作りと、折り紙相撲を日本の子供たちに体験してもらうことによって、子供たちがどう反応するか、子どもたちにとって難しいことは何か確認しました。子供たちに作ってもらったうちわは、フィリピンで授業をする際に例として紹介し、折り紙相撲は、子供たちに対戦してもらう際に使いました。子供たちにレクチャーした後は、流しそうめんをしました。この日は、ISAP の他にも社会人や高校生のボランティア団体の方々が来ており、多くの人の協力があって、流しそうめんのイベントが行われました。このイベントには、3歳から小学6年生まで幅広い年代の子供たちが参加していました。

また、わかくさ保育さんでの活動は岡山県在住のメンバーのみで行いました。ISAP09 実行委員の中にわかくさ保育さんに関わりのあるメンバーがいたため、今回初めて学童交流をさせていただきました。普段、子供たちと関わる機会がないため学童を通して子供に触れ、関わり方や接し方を学びました。

3. 反省、改善点

子供たちの中には、大人しく、どうしたら良いか分からず、戸惑っている子がいました。そのような子がいた時、自分たちの楽しみを優先せず、もう少し気にかけて、ペースを合わせてあげることが必要でした。また今回は私たちがフィリピンから帰ってきてから学童に伺うことができず、フィリピンと日本をつなげるような活動ができなかったので次年度は子供たちを繋げる活動やフィリピンを知ってもらうような活動をするにより学童交流の目的が果たせるのではないかと思います。

4. 感想

子供たちは、うちわ作りや折り紙相撲作りにとても熱中していました。私たちが特に何も言わなくても、子供たちは自分の好きなように工作を進め、うちわ・紙相撲作りを楽しんでい

ました。出来上がったうちわと紙相撲には、子供たちの個性が表れていました。しかし、理解が早く、あっという間に習得し、次から次へと作る子もいれば、不器用でペースが遅い子もいました。その為、帰ってから、フィリピンでは子供たち全員が楽しめるように、分かりやすく伝える方法や子供たちと接する方法を考えるなど、授業の質を上げることに努めました。この交流会を通して子供たちとの接し方を学ぶことが出来ました。

反省会

文責：長谷川 麟

1. 活動目標・目的

ISAP の活動理念である【協働を通じた実践のなかで自他共に成長し、視野を広げる】ことを達成するために、国内活動・国外活動を通して学んだことについて、振り返りと反省を行う。これによって個人としても組織としても成長し、ISAP09 の活動が今後の活動に活かせるようになることを目標とする。

2. 活動内容詳細

日程：10月20日（土）

活動場所：大阪

活動内容：

14:00-14:10 財務処理

14:10-15:30 個人における振り返り

スタッフに募集したきっかけから国外活動を終えるに至るまでの自分の変化や成長について考え共有を行った。自己分析と他己分析を織り交ぜながら考えることで、今まで自分の気づいていなかった自分の成長、変化についても知ることができる機会となりました。

15:30-15:40 休憩

15:40-16:00 実行委員の活動に関する反省と共有

スタッフに対して、実行委員の具体的な仕事内容に関して共有することによって、次期の実行委員に対するモチベーションの向上に繋がると考えます。また、実行委員についてスタッフからも意見をもらうことによって、より深い反省につなげることができました。

16:00-17:30 具体的な活動に関する反省

国内・国外の活動ひとつひとつに対して、良かった点・悪かった点、改善することができる点について、まとめることによって今後の活動にむけて有意義な時間になりました。

3. 反省、改善点

反省会において、大きな反省点はなく参加した全員が自身の活動に対して振り返ることができていたと考えます。強いて反省点をあげるならば、時間の短さです。遠方からの参加者も多く、反省会に使える時間は限られているため、不十分とは言わないですがもう少し時間の余裕があれば、さらに有意義な時間になっていたことが考えられます。

4. 感想

今回の活動に関わった全員が今回の ISAP を通して、成長を実感し、またこの活動を経て各々

がさらに高いレベルで活躍することを望んでいます。ISAP での活動が ISAP の中だけで完結するものではなく、今後の活動に活かせるようにしっかりと落とし込みをすることができる貴重な時間になりました。また実行委員の目線から見て、活動前と比較してスタッフひとりひとりが自ら考え行動する力を身につけることができると感じる機会となりました。

報告会

文責：市川 早紀

1. 活動の目的・目標

ISAP の活動について多くの人に知ってもらう機会にする。またフィリピンについて自分たちが見たことを伝えることで、参加者にも世界や自分について考えるようなきっかけを与える。また ISAP メンバーにおいては発表を通して自分が得た経験を人に伝える発信力を鍛える場とする。

2. 活動内容詳細

日程：10 月 21 日

活動場所：平尾記念セミナーハウス

活動内容：

パワーポイントに写真や動画をまとめて、これまでの活動を発表しました。事前に担当箇所を決め、パワーポイントや発表を各自に任せました。まず初めに ISAP に参加したことがない人にも分かるように、ISAP の細かい概要や NGO 団体である LOOB さんの説明をしました。また参加者にもフィリピンについて深く理解してもらいたいという思いから、基礎知識や自分がフィリピンで感じたことを発表しました。その後、今年の国外活動について細かく説明し、ISAP09 の活動について理解を深めてもらいました。今回はただ聞くだけでなく、参加者にも体験してもらいたいという思いから、ディスカッションを取り入れました。その結果、ISAP メンバーと参加者の交流もでき、有意義な時間となりました。またその他にも休憩や質問タイムをこまめに取り入れることで参加者が飽きずに説明を聞くことができる環境や質問しやすい雰囲気づくりを意識しました。和気あいあいと和やかな雰囲気で報告会を終えることができ、ISAP09 の活動の集大成として良いものとなりました。

3. 反省、改善点

今年は報告会を例年より早く行ったことから、準備不足がでてしまったことが反省です。パワーポイントを使った練習を報告会前日に初めて行ったため、調整や修正箇所の発見が遅れました。また修正箇所が多く、複数のパソコンで編集を行ったことで混乱を招くこともありました。そのため報告会開始ギリギリまで修正が行われ、修正が完了してから一度も通しでリハーサルをすることなく本番を迎えてしまいました。臨機応変に対応することでうまく進みましたが、リハーサルは重ねていればもっとスムーズに進んでいたと思います。これより次年度以降も 10 月に報告会を行う場合はある程度報告会の流れを国外活動前に決め、メンバーに共有しておく必要があると思いました。そして国外活動から帰ってきたら早急に取り組み、ある程度メンバー間での打ち合わせをした状態で報告会前日を迎えるべきだと思いました。今回、私は報告会について LINE での文章上で進めた点が多く、なかなか

伝えきれていない部分があったと感じたので、電話で進捗状況を確認することでそういったことも解消できたのではないかと思います。

また広報不足や母団体である I. S. A. の別プログラムと日にちが重なったことで人が流れてしまい、参加人数が少なかったことも反省です。団体からの広報だけでなく、個人間での広報も行う事で参加人数を増やすことができると思いました。また他プログラムとの日にちの兼ね合いも大事だと感じたので、情報の共有が必要だと思います。

4. 感想

最後の集大成としてそれぞれが責任をもって取り組めたと思います。スタッフ主導で打ち合わせやフィードバックを行っている姿には成長を感じました。慣れない発表に戸惑うメンバーもいましたが、これも経験として次に繋げていってほしいと思います。私個人としては、パワーポイントを作成する上でよりフィリピンについて理解することができ、またそれを発信できる力が身についたと感じています、普段の生活の中で、なかなか発表の場がない私にとって今回の経験は自分の課題発見の場であり、次に繋がるきっかけとなりました。

今回、ディスカッションとしてダイヤモンドランキングと呼ばれる価値の順位付けを行いました。お金、教育、安全、食、就職、友達、家族、スマートフォンの中で価値を順位づけしていきます。当然、人によって考えは異なり、同じ日本に住んでいるメンバーの中でもかなりいろんな答えがでました。なぜこれを行ったかという私は L00B さんと提携している他団体さんとの交流会でこのダイヤモンドランキングを知り、とてもおもしろいと思い、今回取り入れました。私が交流した団体さんは学校の先生として働いている方々で構成されており、フィリピンの小学生や中学生と日本の小学生や中学生にダイヤモンドランキングをやってもらい、その結果を報告していました。子供たちには私たちの様にいくつか題材を渡した状態ではなく、なにもない状態から価値を自由に決めてもらったそうです。日本の子供はお金や、家族が多く、中にはメイクと書いている子もいました。一方で、フィリピンの子供たちは教育や神様と書いている子や家族と書いている子が多く、日本の子供と比べるとどちらかといえば現実的な答えが多かったような気がしました。このように文化や生活が異なるとどこに価値を見出すかも異なるということを知り、これはフィリピンを知る上でとても良い題材だと思いこのダイヤモンドランキングを取り入れました。参加者も積極的に参加していたので企画として成功したのではないかと思います。

国内活動総括

文責：栗原 拓也

国内活動では、フィリピンの基本情報や課題等を学習するとともに、本活動のそれぞれの Activity において何をするのが最善なのかを考えていきました。特に、食育や日本文化を伝える School Activity に重点を置いており、チームや班ごとに明確な目標を立てることにより、自分たちの役割を簡潔に捉えることができました。また、班ごとに意見を交換し、授業練習を行うことで互いの授業内容への理解を深めることを重要視しました。

そのほか、国外活動に向けた英語企画やダンス企画等も並行して行いました。一人ひとりの負担は大きかったと思いますが、ISAP09 の目的・目標を意識することでモチベーションを保つことができました。

今年度の参加者は下級生が非常に多く、遠方からの参加者も多かったため、戸惑いも多々あったと思いますが、一人ひとりが ISAP09 に参加した目的をしっかりと持っており、本活動を通じて成長したいという気持ちを持っていたことで、困難も乗り越えることができたと感じています。

国内活動写真

事前勉強会の様子



学童交流会の様子



国外活動報告会の様子



国外活動概要

期間：2018年9月3日～9月15日

場所：フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市

対象：ナバイス村に住む人々

目的：協働を通じた実践により自他共に成長し、広い視野をもつこと

今年度の目標：常に問題意識を持って自発的に協働する。

(more attentive, more initiative, always have awareness of problems and cooperation)

構成：「フィールドワーク活動」「協働活動」「交流活動」

協力団体：NGO LOOB

フィールドワーク総括

文責：加藤 有梨沙

1. 活動内容

・Dumpsite Tour

L00B スタッフの方からごみ投機場の現状やイロイロ市におけるゴミの排出量について教えていただいた後、実際にスモーキーマウンテンを訪れました。スモーキーマウンテンではごみの廃棄やリサイクルについて教えていただきました。また、ごみを集めることによって生計を立てて暮らしているウエストピッカーの方の家に訪問し、生活をはじめとする様々な質問をさせていただきました。

・City Tour

L00B スタッフの方のご案内により、イロイロ市を観光しました。市内を巡ったりシティーホールや市場を訪れたりすることで、フィリピンの歴史やイロイロ市の文化について学びました。

2. 個人感想

フィールドワークを通じて、実際に現場を訪れ、自分の目で確かめる事がとても重要であるということを再認識しました。スモーキーマウンテンを訪れた際に、ごみの廃棄の現状や臭い、規模などを実感しました。そこで、実際に感じることと知識や情報として知って言うこととは全く違うと感じました。そして、そこで行われているごみの分別やリサイクルのための取り組みについても詳しく知ることができました。ウエストピッカーの方の家の訪問した際は、暮らしや環境、仕事についてなど多くの質問をさせていただきましたが、ウエストピッカーの方はどの質問にも詳しく答えて下さり、とても貴重な機会でした。この訪問はフィリピンだけでなく日本での生活や環境についても考え直す機会となりました。

シティーツアーではイロイロ市内を巡り、文化や行事について多くのことを吸収することができました。また、ゆかりのある建物や像、史料を見ることによってフィリピンの歴史を知るとともに、戦争におけるフィリピンと日本との関係についてももっと学ばなければならないと感じました。フィリピンの現在を知ること大切であるけれど、歴史についても学ぶことが、フィリピンと日本という互いの国について考えるという点において重要であると感じました。

これらの活動は実際に現地を訪れ、問題について考える点において、貴重な経験となりました。今回の活動を通じて発見できた視点を持ち、問題に臨むことによって、協働していきたいと考えます。

Dumpsite Tour

文責：榎 理奈

1. 活動の目的・目標

スモークーマウンテンに実際に行き、フィリピンの現状を知ること。またそこで生活する人にインタビューをし、スモークーマウンテンへの理解を深めること。

2. 活動内容詳細

日程:2018年9月4日(火)

活動場所:イロイロ市カラフナン地区

活動内容:スモークーマウンテンを訪れ、はじめにスモークーマウンテンについてレクチャーを受けました。その後、実際に内部を見学し、スモークーマウンテン付近に住んでいる家庭を訪れ、インタビューをしました。

3. 反省・改善点

去年行った方々にインタビューの時間が長いことを聞き、質問はたくさん準備していました。しかし、実際に家庭を訪問してみると、私たちの想像と違った家庭で、準備していた質問もあまり聞けませんでした。私たちの想像していた家庭は、家族の誰かがウエストピッカーでお金を稼ぎ、子供達は学校に行けずウエストピッカーの仕事を手伝っているというものでした。お話を伺ってみると、お父さんがトラックのドライバーでウエストピッカーよりも給料がよく、子供達も学校に行き、優秀な成績を収めているようでした。勝手な決めつけで質問を絞っていたので、なにを聞くか困ってしまいました。そのため、質問を多く準備することも大事ですが、その内容も色んなことを想定して様々な質問を考えておくべきだと思いました。

4. 感想

スモークーマウンテンのことは国内にいる際に、状況や臭いのことなども聞いていましたが、自分自身で体験してみたいと思っていました。実際に訪れてみると独特の臭いがし、広い範囲に渡ってゴミが積まれていました。その日は少し雨が降っていたのですが、ゴミから出る黒い液体も川に流れ出ていました。そんな中で実際に生活する方々がいることには本当に驚きました。スモークーマウンテンで生活する上で、病気などを心配しているか質問したところ、子供達がデング熱にかからないか心配だとお母さんが答えてくれました。それならゴミ山は無くなった方がいいと思う反面、なくなればウエストピッカーやトラックのドライバーとして働く方々の仕事が無くなるため、難しい問題だと思いました。しかしその中でも、ベルトコンベアーでゴミを流し、そこからゴミを選別するという仕組みができるな

ど改善はしていつているようでした。これからスモーキーマウンテン付近に住む方々がより良い生活をしていけるように改善されていつてほしいと思います。

City Tour

文責：笠田 朋実

1. 活動目的・目標

イロイロ市の歴史や文化を知り、その土地の人々の生活を肌で感じる。自分たちがこれから共同活動をする地について学ぶ。

2. 活動内容詳細

日程：2018年9月5日（水）

活動場所：イロイロ市内

活動内容：フィリピン人メンバーと一緒にイロイロ市内をグループに分かれて観光しました。指定されたポイントを探し、グループ全員で写真を撮ったり次の目的地に行くためのクイズを解いたりしてイロイロ市の歴史や文化を学びました。

3. 反省・改善点

振り返ると楽しかったという印象がつよいですが、反省として挙げられることは現地の人々とのコミュニケーションが少なかったことだと思います。挨拶程度の会話しかできなかったのが積極的なコミュニケーションを心掛けるべきだったと思います。時間が限られた中で、ひとりひとりが余裕をもって行動しまわりに気を配ることができればもう少し現地の人々とのコミュニケーションがとりやすくなると思います。

4. 感想

私は City Tour でイロイロ市の歴史的な建造物や銅像、文化的な衣装などを実際に肌で感じる事ができよかったと思います。この日は現地について3日目ということもあり、まだフィリピン人メンバーの皆さんと距離がありましたがミッションゲームのとき銅像をなかなか見つけられない私たちにヒントを出してくれたりみんなで写真を撮ったりして City Tour が終わるころにはとても親睦を深めることができました。少し残念だったことは雨季ということもあり天候が変わりやすかったために土砂降りになったことです。日本の雨とは比べ物にならない量の雨が降ってきて途中雨宿りすることもありましたが今では大雨の中イロイロ市内を走り回ったこともいい思い出になりました。現地の方は気さくな方が多く、知っている日本語で声をかけてくださる方や濡れている私たちを心配してくださる方もいて嬉しかったです。私が一番印象に残っていることはイロイロ市の市場を訪れたことです。野菜や果物でも日本では売られていないようなフィリピン特有のものもあり、その他にもココナツで作られたキーホルダーなどの雑貨もありました。外国の市場を訪れることは初めてでしたがその国特有の雰囲気や人々の賑わいを感じることで異文化体験ができたと思います。

今回の City Tour では初めて見る風景やものばかりで多くの驚きと発見がありました。現地のスタッフの皆さんが考えてくれたミッションゲームのお陰で楽しく歴史や文化を感じ、現地の人々の生活も垣間見ることができました。限られた時間の中でとても有意義な時間を過ごすことができ活動目標を達成できたと思います。

協働活動総括

文責：河瀬 理帆

1. 活動内容

・小学校訪問 (Nutrition Lecture)

私たちは給食前に子供たちに対して三大栄養素についての授業をおこないました。具体的には、タンパク質、ミネラル、ビタミン、脂質、糖質などの栄養素が体にどのような影響を与えるかについて手作りの資料を用いて説明し、どのような食材や食品がそれぞれの栄養素に当てはまるかを子供たちに答えてもらいました。低学年と高学年の子供たちに一度に教えなければならなかったため、写真やイラストを使ったりクイズを取り入れたりすることで、分かりやすく、かつ子供たちが飽きないような授業づくりをしました。3回ある授業の全てを同じ子供たちを対象にしておこなったので、フィリピン人スタッフと話し合いながら授業内容やクイズを変え、子供たちにバランスの良い食事の大切さをしっかりと伝えられるように努めました。授業後の給食中にはスタッフたちが子供たちに対して、嫌いなものを残さず食べることを呼びかけました。

・Weekend Activity

Weekend Activity では、小学校の近くの広場に子供たちを集め青空教室を開き、手洗いについての授業をおこないました。子供たちと交流を深め、授業に興味を持って聞いてもらえるように、最初に一緒にゲームをして遊びました。ゲームには、日本人に馴染み深い色鬼とケードロ（泥棒と警察）を選び、フィリピンの子供たちにとって日本の子供遊びの文化について触れる機会にもなるようにしました。手洗いの授業は、手洗いによって何が防げるのか、洗い残しが多いのはどこかなどについて説明するグループと、隅々まできちんと洗える正しい手洗いの方法を教えるグループに分けておこないました。最初に菌やウイルスの怖さを知ってもらい、次にどのように手を洗えば良いかを伝えることで、子供たちの頭に残りやすくなるような授業の流れを意識しました。正しい手洗いの方法では、ただ手順ややり方を伝えるのではなく、子供たちに分かりやすく、覚えやすいようにイラストを使いながら歌に合わせて教えました。授業後は実際に子供たちに石鹸で手を洗ってもらいましたが、子供たちは皆教えた通りの洗い方で手を洗うことができていたので、正しい手洗い方法を身につけることができたと思います。

・Work 活動

Work 活動では、小学校の校舎から給食を食べる部屋までの間に渡り廊下を作りました。地面に転がる石を取り除くことから始め、屋根を支える柱用の穴を掘るために地面を削ったり、土の入った重たい袋をバケツリレーのようにして運んだりといった作業を、日本人スタッフやフィリピン人スタッフと協力しながらおこない、渡り廊下を完成させることができました。

ました。猛暑やスコールなど天候に左右されながらも、スタッフ全員ができることを積極的におこない、雨の日でも子供たちが安全に部屋までたどり着くことができるようになりました。

2. 個人感想

Nutrition Lecture では、3回の授業全て同じ生徒が集まるということで、いかに子供たちを飽きさせないかに苦労しました。3回ともそれぞれ違う日本人メンバーたちが授業をおこなったため、フィリピン人メンバーとだけではなく日本人メンバー同士の情報の共有も重視しておこないました。私は子供たちが給食を食べている間その様子を同じテーブルで見ていたのですが、野菜なども残さずきちんと食べる子供もいれば、授業を聞いても嫌いなものは残し好きなものだけおかわりする子供もいました。そういった場面を見るとやはり残念な気持ちになりますが、残さず食べるよう声をかけると食べてくれる子供もいたので、根気強く繰り返し伝えていくことが重要だと感じました。また、Nutrition Lecture は Weekend Activity の後におこなったのですが、Weekend Activity で教えた手洗いの方法を給食の前に実践している子供が多くいて、自分たちのしたことが子供たちにしっかりと伝わっていたということが実感でき、とてもうれしく思いました。その Weekend Activity では、それまでの様々な活動を通して感じた「子供たちに授業を伝えるという部分においてフィリピン人メンバーに頼りすぎている」という自省のもと、できるだけ自分自身が子供と関わり、自分で伝えるように心がけました。フィリピン人メンバーには私たちの英語を現地の言葉に翻訳してもらうため、どうしてもフィリピン人メンバーに頼りがちになってしまい、子供たちを整列させたり静かにするよう注意したりすることを任せてしまっていたのですが、フィリピン人メンバーに「座る」「立つ」「静かにする」などの簡単な現地の言葉を教えてもらい、それらを積極的に使うことで、自らが授業をおこない子供たちに伝えているということを実感できるようになりました。またそうすることでフィリピン人メンバーを介さずに直接現地の子供たちと関わるので、より深く子供たちと交流することもできて嬉しかったです。Work 活動は、一番フィリピン人との協働を感じることができました。水と土と石灰を混ぜ合わせてコンクリートを作ることから始めるなど作業は力仕事が多く、台風の影響で天候も悪くカッパを着て作業することもありとても大変ではありましたが、その分作り終わったときの達成感や自分たちの名前を刻んだ喜びはとても大きなものでした。こういった作業に不慣れな私たち日本人の力はフィリピン人たちに比べると微々たるものだったかもしれませんが、フィリピン人キャンパーと一緒に土を運んだり、ペンキを塗ったり、セメントを作ったりという作業を楽しみながら一生懸命おこない、常に笑いの絶えない現場でした。

Nutrition Lecture

文責：西久保 あゆみ

1. 活動の目的・目標

子供たちにバランスよく栄養を取ることの大切さを教える。また三大栄養素にはどんな食べ物があるのか、身体の中でどんな働きをしてくれるのかを理解してもらうことで、日々の生活の中で使うことができる知識を与える。ただ教えるだけでなく、子供たちにも参加してもらうことで知識として定着させることを目標としている。

2. 活動内容詳細

活動日程：2018/9/10, 11, 12

活動場所：Navais Borres Elementary School

活動内容：

私のチームのレクチャーの全体の流れはアイスブレイク、授業、クイズ、昼食といった感じで昼食前 20～30 分使わせてもらい行いました。レクチャーは私たち日本人メンバーが英語で説明した後、フィリピン人メンバーがヒリガイノに訳してくれました。私たちはアイスブレイクとして UP&DOWN ゲームという、立ったり座ったりするゲームを用意していたのですが、思いのほか子供が多かったのが急遽、手の上げ下げに変え、できるだけ動きを小さくして対応しました。レクチャーはまず、GO の食べ物から何が得られるのか子供たちに質問して GO の食べ物の働きを説明しました。同じように GROW と GLOW もして、この時、果物が描かれている写真を見せながら説明しました。一通り説明し終えたらカードを混ぜて子供たちに見せ、GO の食べ物はどれかを当ててもらって Guessing ゲームをしました。子供たちが積極的に参加してくれたので楽しんでできました。A チームが発表していたら B チームがとりの部屋で配膳準備をするという形をとったため、子供たちはレクチャーを受けただけでなく、すぐ昼食を食べることができました。食事中は配膳していた B チームが子供たちと話して交流しました。野菜を残している子がいたら食べるように促したり、今日のレクチャーはどうだったかを話したりしました。Nutrition Lecture は 3 日間行い、予定変更はあったものの 3 日間すべて行うことができました。

3. 反省、改善点

アイスブレイクでチーム分けをしたのですが子供も多く分かれ目もわかりづらいものになってしまったので、チーム分けの説明は省いて、ゲームの時間を増やすなりレクチャー時間を増やすなりしたほうが良いと思います。そのため、全員でできるゲームを考える必要があります。また、一人のセリフが長いと子供たちはつまんなさそうな顔をすることもありました。その他にもスクリプトを見たまま読んでいて声が通らないことがあったので、暗記した方がよいと思いました。そのため一文を短くし、複数の人が登場することで子供たちも退

屈せずに説明を聞くことができるのではないかと思います。

4. 感想

レクチャーの準備が現地についてからしかできなかったためフィリピンメンバーとの打ち合わせやシェアの時間がなかなか取れず、時間を作るのが大変でした。私はチームリーダーをやらせていただいたのですが、フィリピンメンバーといつ打ち合わせをしようか、時間は見つけたがテンションの高い彼らに話しかける勇気がないなど自分と闘うことがありました。しかし、私が今打ち合わせをしなければメンバーにも迷惑かけるし、次やるチームにも引継ぎができない、と責任を感じたら話しかけることができました。フィリピンメンバーは私のつたない英語を理解しようとし、レクチャーの流れやアイスブレイク、スクリプトまで考えてくれました。リーダーをやったことで自分がどれだけ実行委員の人たちや他のアクティビティのリーダーたちに頼っていたかを実感しました。私のチームは3つのチームの中で最初にレクチャーを行ったので、どんな感じになるのかも全く想像できないまま行いました。ですがフィリピンメンバーが盛り上げてくれたおかげで楽しく行うことができました。Nutrition Lecture は School Activity と違って、食堂にくる子供たちの学年は定まっておらず、全学年の前での発表になります、そのため低学年の子供たちにちゃんと伝わったのかは実感できませんでした。活動を通して、自分がフィリピンに何をしに来たか、自分の行動に責任を持つなど改めて考えさせられました。Nutrition Lecture ということで一人でも多くの子供に食事をバランスよく食べることの大切さを伝えられていることを願います。

Weekend Activity

文責：桐畑 紗里花

1. 活動の目的・目標

私たちの提携団体である L00B さんの取り組みとして Weekend Activity は行われている。この活動は土曜日に無学年生の授業を開き、学校では学べない知識を学ぶということが目的である。今回は ISAP メンバーが授業を担当させていただいた。私たち、ISAP での目標は日本の遊びを伝えることによって、文化を共有し、子供たちの視野を広げることと手洗いうがいや栄養の知識をあたえることによって、子供たちの今後の生活に繋がる授業を目指した。

2. 活動内容詳細

活動日程：2018 年 9 月 8 日（土）

活動場所：ナバイス村運動場

活動内容詳細

土曜日の学校が休みの日にナバイス村の子供たちを集め、アイスブレイク、食育と手洗いうがいにに関するレクチャーをおこないました。私たち日本人が、事前にフィリピン人メンバーに詳細を伝え、本番では、彼らが現地の言葉に訳して子供たちに伝えてくれました。アイスブレイクは、日本独自の遊びである色鬼とケイドロ（警察と泥棒）をおこないました。色鬼は、子供たちは無我夢中で指定された色を探し、あっという間にタッチしていました。ケイドロは、フィリピンの子供たちは鬼ごっこが大好きなので、慣れた様子で楽しそうに走り回っていました。食育は、三大栄養素 {熱や力になるもの（糖質、脂質）、体をつくるもの（タンパク質）、体の調子を整えるもの（ビタミン、ミネラル）} についてレクチャーしました。三大栄養素がそれぞれどのような働きをするのかを伝え、どの食べ物がどの栄養素に当てはまるか子供たちにクイズ形式で答えてもらいました。手洗いうがいのレクチャーでは、二つの班が異なる方法でおこないました。一つ目の班は、紙芝居を使って、バイ菌は小さくて目に見えないが、その威力は人間やゴリラよりも強く、手を洗わないと危険であることを伝えました。そして 2 つ目の班が、効果のある手の洗い方を歌に合わせて伝えました。その後、実際にみんなで手を洗い、食事をしました。

3. 反省点・改善点

アイスブレイクの企画・実行は英語企画のメンバーが担当でした。私は、その中の 1 人でした。私たちは、イロイロ市に到着してから 2 日目の Child Minding も担当していたのですがこの時、雨の日用のプランを用意出来ていなかったり、フィリピン人メンバーに事前に詳細を伝えられていなかったりと、準備不足によって、かなり悔いの残るものになってしまいました。その為、このアイスブレイクは、絶対に成功させたい！子供たちに楽しんでもらい

たい！と思っていたので、事前にフィリピン人メンバーに、ゲームのルールをデモンストレーションで伝え、実際に子供たちの前で話す英語を紙に書いて渡しました。出来るだけフィリピン人メンバーに頼らず、自分たち日本人の力で子供たちのアテンションを取ることを目標としていたため、声を大きく張ることを一番意識しました。様々な場合を想定していましたが、想定していなかったことが起こると、フィリピン人メンバーと、上手く英語でコミュニケーションをとることが出来ず、臨機応変な対応が出来ませんでした。英語力の重要さを改めて痛感させられました。次年度以降、ISAP に参加する人たちは英語でコミュニケーションをとることに慣れておき、臨機応変に対応することができるようになっていくことが望ましいと思います。

4. 感想

学校が休みなのにも関わらず、たくさんの子供たちが運動場に集まってくれたので、とても嬉しかったです。その反面、こんな多くの子供たちをまとめなければいけないのかと、始まる前、不安に駆られていました。アイスブレイクは、フィリピン人メンバーと事前に、ルールや子供たちへの指示の仕方を確認していたので、Child Minding に比べると、スムーズに行なうことが出来ました。しかし、いざという時、言語の壁がネックになり、フィリピン人メンバーに伝えたいことがなかなか上手く伝えられず、彼らだけの認識で子供たちを動かすことがありました。英語がもっと話せたらな、聞き取れたらな、と、悔しい思いをしました。今後、ISAP だけに関わらず他の場面でも、この時の様に、伝えたいことを伝えることが出来ないというもどかしさを感じたくないので、英語の勉強にもっと力を入れようと思います。このアクティビティの企画実行を通して、悔しい思いもたくさんしましたが、それよりも気づくことが多く、自分の成長も少し感じる事が出来ました。これからの経験に活かしたいです。食育は、フィリピンの子供たちは、三大栄養素のことを元々よく知っており、元気よく Go (糖質・資質) Grow (タンパク質)、Glow (ビタミン・ミネラル) と叫んでくれました。しかし、まだフィリピンでの野菜の摂取量は少ないので、子供たちが好き嫌いせず、残さずに何でも食べてくれるようになったら良いなと思います。手洗いうがいのレクチャーは、紙芝居や、劇、歌という様々な方法を用いることで、子供たちのアテンションを取ることが出来ました。紙芝居で、バイ菌の恐ろしさを伝え、歌に合わせて手洗いの方法を教える、という流れが分かりやすくて良かったと思います。学年関係なく、幅広い年齢層の子供たちが参加していましたが、私語をしている子は少なく、集中して私たちの話に耳を傾けてくれました。実際に手を洗う際に、子供たちが、私たちの教えた手洗いの形を使って手を洗ってくれたことが嬉しかったです。私たちが帰った後も、思い出して歌を口ずさんでくれていたら、伝えた意味があったのだなと思います。

Work 活動

文責：新田 朱梨

1. 活動の目的・目標

L00B スタッフ、フィリピン人メンバー、ISAP メンバーで協力して Work 活動を行うことによって絆を深め、互いの信頼を高めることです。

2. 活動内容詳細

活動日程：2018 年 9 月 6 日午後、9 月 7, 8, 10, 11, 12 日午前

活動場所：Navais Borres Elementary School

活動内容：雨の日でも快適に学校生活を送れるように渡り廊下をつくりました。

①掘るグループ(leveling)

地面を掘り地盤の高さを揃えました。また、コンクリートの壁を作成するための溝の作成も行いました。

②混ぜるグループ(mixing)

渡り廊下の通路を作成するためのコンクリートをつくりました。スコップを使用して、セメント、砂、砂利、水を混ぜ合わせました。

③土の調達グループ

袋にコンクリートをつくるための土を詰め作業現場まで運び、土の採掘を行なった後、指示された場所に移動させました。

④ペンキグループ

渡り廊下の骨組みとなる木材部分に白色のペンキで塗装しました。

⑤穴を掘るグループ

渡り廊下の支柱を立てるために深い穴を手作業で掘りました。

⑥バケツリレーグループ

セメントを作るときの水をび、混ぜ終えたセメントをメディカルスタッフに調達する際に複数人で並んでバケツリレーをしました。

3. 反省・改善点

個人反省

Work 活動が始める前にフィリピン人メンバーによるその日にする作業の説明を聞き取りきれず、L00B さん側の日本人スタッフの日本語説明に頼ってしまうことがありました。また、作業中に英語での指示にすぐ対応できず、作業に時間をかけてしまうこともありました。

全体での反省

積極性・自主性はありましたが、体力的に辛い作業を苦手とする人が多く見られました。日に日に疲れが溜まっていることもあり、作業ペースがおそくなっている場面がありました。また、フィリピン人メンバーも日本人メンバーも、同じ人が同じ作業をずっとしていることが多く、負担の偏りがあったと思います。作業効率を上げるためや色々な経験をするためにも交代で作業をすすめることが望ましいと思います。。

フィリピン人の明るさに助けられてばかりで、日本人からもパワフルな雰囲気づくりを積極的にもっと行うことでよりよい作業空間が生まれると思います。

セメントを混ぜる際、だんだん慣れてきて大胆に混ぜてしまうことがありました。そのため水を縁からこぼさずに土と混ぜることができず、コンクリートの質が悪くなりそうな時がありました。今回はなんとか綺麗なコンクリートを作ることができましたが、子供たちが毎日利用する渡り廊下なので質の悪いものを作ると危険だと思います。そのためスピードも大切ですが、質の良さも大切にすることを次年度以降は意識するべきだと思いました。

4. 感想

今回の Work 活動では渡り廊下を作成しました。思い返せば、私が通っていた小学校には渡り廊下があり、雨の日も濡れずに足元も汚れず快適に過ごしていました。日本の小学校で育った自分にとって、雨の日に濡れず、汚れず過ごせることは当たり前すぎて、「渡り廊下のない生活はどんなものなのか」など考えたこともありませんでした。今回、渡り廊下を作ること知らされたときに、「たしかに、渡り廊下がないと困るな」と感じました。はじめて土木作業をする日本人メンバーがたくさんいたことや作業もかなりの肉体労働だったことで、作業開始 3 日目あたりから日本人メンバーの顔から疲れが見え始めていました。もともと ISAP でのスケジュールがタイトなものであったのでそれによる疲れが溜まってきていたと思います。しかしフィリピン人の方とはとにかく明るい！冗談を言い、流行りのポーズをして私たちに笑顔にさせてくれました。そんな風に明るく盛り上げてくれるフィリピン人のおかげで少々疲れていても頑張ることができました。また小学校の児童たちも作業をする私たちに向かって声をかけてくれたり、手を振ってくれたりしたことで疲れも吹っ飛び、毎日楽しく乗り切ることが出来ました。もちろん、日本人メンバーの支えは心強かったです。またブレイクタイムには、みんなでサリサリと呼ばれている駄菓子屋のようなところに行き、お菓子を食べ、ジュースを飲んでリフレッシュしていました。ブレイクタイムにも子どもたちと触れ合えたので楽しい時間を過ごせました。今回の Work 活動を通して、楽しいことはもちろん、自分の役目を全力で果たそうとするフィリピン人キャンパーのマインドに刺激を受けました。毎日の生活を流れるように過ごしてしまうことが多いので、このような心身ともに充実した生活を送ることが出来て良かったです。まだまだ日本の子どもたちの学校生活に比べたら設備の面で不十分なところがたくさんあると実際に小学校を見て思いました。また安全面に欠けている部分もあり、いかに自分たちが設備の整っている環境で過ごし

ていたかわかりました。Work 活動を通してフィリピンの良さも、日本の良さも実感することが出来ました。

交流活動総括

文責：植田 七菜子

1. 活動内容

・ School Activity

現地の小学校で日本の文化と食育についての授業を行いました。グループに分かれて、日本文化と食育の授業を行いました。今年は日本文化 A が紙相撲、日本文化 B がうちわ、食育 A がオクラに焦点を当てた野菜の大切さ、食育 B がお米から食文化で授業を行いました。授業は A 班と B 班に分かれて 1 つの授業を担当しました。現地での授業は 3 回行い、1 回目小学 4 年生、2 回目 5 年生、3 回目 6 年生を担当しました。授業が終わるごとにフィードバックをする時間を設け、次につなげる活動も行いました。

・ Friendship Night

お世話になったホームステイ先の家族に感謝を伝える会です。日本とフィリピンの伝統料理をそれぞれ振舞ったり、家族ごとにダンスを披露しあったりしました。またフィリピン人メンバーからも日本人メンバーからも出し物を披露し、場を盛り上げました。

・ Homestay

ISAP メンバー 2 人とフィリピン人メンバー 1 人で 1 グループとなり、ナバイス村にホームステイしました。期間は 1 週間です。実行委員長と総務は、LOOB 側とのミーティングや緊急時の対応があるため活動拠点であるベースで過ごしました。

2. 個人感想

これらの活動を通じて、フィリピンの文化や慣習、フィリピン人の考え方、価値観を学びました。そして日本の文化や伝統、日本人の特徴なども伝えることができました。ただ私たちが School Activityなどで日本について教えるだけでなく、彼らから教えていただいたこともたくさんありました。水や電気、食べ物のありがたさや、学校に行き勉強ができる喜びなど日本にいたら当たり前のことで気づかなかった日常の些細なことの大切さに気付かされました。そして改めて、日本という国のすばらしさを再発見し豊かさを実感しました。また日本とフィリピンは全く違う国同士に見えますが、共通点もいくつ見つかりました。家族をととても大切にするとところやお客様を最大限おもてなしするところなどです。これらの発見は実際にホームステイをして家族の一員にならないと見えな、わからない部分であると思います。メンバー 1 人 1 人がこの体験を通じて、どのような形になるかはわかりませんが、この経験がいつか必ず役に立つときが来ると私は信じています。

School Activity (食育)

文責：中村 梓

1. 活動の目的・目標

食育では、フィリピンの子供たちに日本の食文化や、バランスの良い食事を探ることの利点や野菜の大切さを知ってもらうことを目標に、実践などの様々な工夫を凝らして楽しんでもらうことを目的とした。

2. 活動内容詳細

日程：9月7日（金）、10日（月）、11日（火）

活動場所：Navais Elementary School

活動内容：食育では、A グループが「野菜の大切さ」B グループが、「お米の違いからみた食文化」について授業を行いました。授業では、日本文化のグループとセットになり、食育と日本文化の授業を1時間ずつ行いました。（A グループ：食育「野菜の大切さ」と日本文化「紙相撲」、B グループ：食育「お米の違いからみた食文化」と日本文化「うちわ」）

食育 A では、野菜の大切さを子供たちに伝える為に実践を取り入れました。フィリピンでは、野菜の摂取量が少ないと言われています。だからこそ野菜の大切さを伝えてバランスの取れた食事を子供たちにしてほしいです。そこで、実際に「植える」という体験をすることで、野菜ができるまでの過程や野菜の魅力などを知ってもらい、野菜を身近に感じてもらえるような授業を行いました。授業内容は、まず食事の三要素（赤、黄、緑）について教え、実際のフィリピンの食事には緑（野菜）が少ないことに気づいてもらいました。そこで、野菜をこれからたくさん摂取してもらうために、野菜の魅力や栄養のクイズなどをしながら子供たちに伝えました。また、今回一緒に植えるオクラの効能や日本でも食べられていることなど、オクラの一生をクイズ形式にして伝えました。そして、実際に一人ずつオクラを植えました。

食育 B では、日本人メンバーが日本のお米について詳しく説明し、フィリピンの子供たちがお米についてのはなしを聞いて、目で見、実際に日本のお米を触ってもらうことにより、子供たちにとって新しい発見をもたらし、好奇心を刺激するような有意義なものにしようと考えました。そこで、フィリピンで食べられるお米（インディカ米）と日本のお米を比較しながら、日本の食文化に関する知識を得てもらうと同時に、お米を使った料理に関連した日本の文化的な事柄を伝える授業にしました。具体的に授業内容は、まずフィリピンと日本で食べられているお米の種類の違いを取り上げました。インディカ米とジャポニカ米は見た目だけでなく、味や食感、食べ方が違うので、クイズを通して伝えました。また日本のお米から作られる食のバリエーションもたくさん存在します。例えば、お餅です。実際にお餅のつき方を再現しながら伝えました。両国の共通食文化の米から日本を伝えることができ

た授業でした。

3. 反省・改善点

どちらのグループも国内での準備はしっかりしていたため、フィリピンに着いてから困ることはありませんでした。また、国内にいる時から授業を通す練習を何度もしていたので、国外での授業もスムーズに行うこともできました。どちらの班もクイズを多く授業に入れていたのも、子供たちは喜んでくれました。改善点は、フィリピン人メンバーに頼り過ぎてしまうことがあったことです。授業中、子供たちと同じテンションで大きな声で授業をしないと集中力が途切れてしまうこともありました。その時に、フィリピン人メンバーに頼るのではなく、ボディーランゲージや簡単なヒリガイノン（イロイロ市の母国語）を使って日本人が積極的に子供たちともっと関わっていく必要があると感じました。また周りの授業をしていない日本文化の班との授業内容の共有もしっかりしておいたほうが良いと感じました。また、食育A班では、授業が始まる直前に教室の変更があったため、フィリピン人メンバーとあらかじめしっかり情報の共有をしておくとう良いと思いました。

4. 感想

School Activity が終わって、ホームステイ先に帰ると子供たちに私たちが教えた「ネバネバ」というオクラの感触のことを言ってくれていて、とてもうれしかったです。フィリピン人と一緒に協力して授業を作り上げる、というとても貴重な体験をすることができました。私は、一番大切なことは、子供たちの印象に残る授業をすることと同時に、自分たちも楽しんで授業をすることだと思いました。この経験を活かしてこれからたくさんの方にチャレンジしたいと思います。

School Activity (日本文化)

文責：中 春乃

1. 活動の目的・目標

日本文化では、身近なもので文化の違いを感じてもらい、子どもたちにとって少しでも将来につながるような記憶に残る楽しい授業を行うことを目標とし、子供達が、もっと日本の事をしりたい、あるいは海外の文化を知りたいと思い、授業の後に行動を起こすようなターニングポイントとなるような授業にすることを目的としました。

2. 活動内容詳細

日程：9月7日（金）、10日（月）、11日（火）

活動場所：Navais Elementary School

活動内容：A グループが「体験を通して日本文化を知ってもらう～相撲と折り紙を伝える紙相撲～」B グループが、「うちわ作りを通して日本文化を楽しく知ってもらう」をテーマとし日本文化について授業を行いました。

日本文化Aでは、まず初めに日本の伝統文化である相撲を絵や写真を使いながら、フィリピンに国技あるように、日本にも国技がありそれが相撲である事を伝えました。また、相撲を怪我なく安全に体験を通して、楽しみながら学んでもらうために紙相撲を行いました。そして相撲を紙相撲として伝えることでその際に紙相撲で使用する折り紙についても説明し、折り紙についても知ってもらうことができました。クイズ形式で説明をし、トーナメントで相撲勝負を行うなど子どもたちがより楽しみながら取り組めるようにしました。

日本文化Bでは、うちわ作りをしました。まず初めに簡単なゲームで交流を深め、距離を縮めました。また、体を動かして暑くなったところでうちわの説明に切り替え、興味を持ってもらうためフィリピンの暑さ対策について尋ねながら日本の暑さ対策をいくつか取り上げ、写真などを使い比較しながら説明をしていきました。そして、今回はその中の一つであるうちわについて取り上げ教えました。なぜうちわにしたかという、電化製品に頼らずとも、今後子どもたちが手軽に作ってくれたり、使ってもらったりと次に繋げられるようになってほしいためです。実際に作る機会を設けることでより印象づけることができました。また身近にあるものを使って、暑さをしのげるものを簡単に作ることができることを実感してもらいました。

3. 反省・改善点

今回準備の時間が十分に与えられていてみんなが満足のいく形で現地に向かうことができましたと思います。しかし、名札を作るという予定にしていたにもかかわらず実際、現地でどのような名札を使用するのか決めておらず、その場で準備することになってしまったなど先

を考えられていない場面もありました。また、どの場面でも感じたことですが自分たちに英語力がないためフィリピン人メンバーに自分たちが何を伝えたいのか何をしたいのか伝えきれていない部分もあったと思います。現地に行くまでにしっかり英語力を身に付けておくことが一番だとは思いますが、英語力がない中でも自分たちが今できることは何かしっかり考えその場で動くことが重要だと感じました。そして、国内活動の段階で事前にフィリピン人メンバーと関わり、打ち合わせなどをおきスムーズに取り組めるようにできればより良いものに出来たのではないかと考えます。

4. 感想

私はあまり英語が得意ではありません。現地でも自分が伝えたいことがなかなかうまく伝わらず、もどかしい思いをすることがありました。このような状態で子どもたちに授業を伝えることができるだろうかという不安がありましたが、フィリピン人メンバーから簡単な現地の言葉を教わりその言葉をどんどん使うことで子どもたちとの距離を縮めることができました。また、子どもたちへ何かきっかけを作れたらと取り組んでいましたが、私の方も変わるきっかけを、そして何より純粋な笑顔に元気をもらって帰ってくることができました。

Homestay

文責：中井 颯人

1. 活動の目的・目標

実際に現地の方々と寝食を共にしてより深く、異国の文化や風習や習慣を肌で感じ学ぶため。

2. 活動内容詳細

日程：9月6日(木)～9月12日(水)

活動場所：ナバイス村に住む人々の家庭

活動内容：

日本人2人、フィリピン人メンバー1人で各ホームステイ先に訪問しました。家族との会話や子供たちとの交流、ダンスの練習などをして過ごしました。朝ごはんは、ホストマザーに作っていただきました。日本とは設備の異なる場所でのお風呂や、トイレ、寝食を経験しました。

3. 反省点・改善点

ホームステイを受け入れてくださった各家庭が、非常に親切であったため日本人メンバー全員が充実した時間を過ごすことができました。しかし、拙い英語のために家族との会話が續かない、意見を交換できないといった事が問題となりました。もちろんフィリピン人メンバーの助けもあり、私達をサポートしてくださるのですが、やはり自信がないために話すことをためらう姿が多くみうけられました。やはり、より伝統や食といった文化を知るためにも、日常会話程度の英語を事前に学習していく必要があると考えます。また、英語を話すことのためらいをなくすために、まずは国内活動での日本人だけの間で英語を話す、聞くといったことから始め自信をつけていくのが良いと考える。

4. 感想

私は、ほんの1週間と短い期間ではありますがホームステイを通じて色々なことを学びました。まずはフィリピンの習慣や風習を直に感じる事ができたことです。特に違いを感じたのは、水や電気です。僕たちが訪れたナバイス村では、水道がなく夜の街灯や、電波も非常に弱いところでした。そのような中での生活では、協働作業がかかせません。今、日本で当たり前のように使っている水道の水も井戸から汲まなければならない、非常に重いため協働作業を必要とします。もちろん水以外の洗濯物や、荷物を運ぶ時など、ありとあらゆるところで人との協力が必要になります。そのような生活を過ごしている、フィリピン人は非常に心が広く、行動力や積極性に長けており、彼らと過ごす日常には日本で感じていたストレスを少しも感じませんでした。私は彼らから人の温もり、優しさを学びました。また、文化

の違いを経験することは、世界には多種多様な人物がいて、さまざまな考えを持っている事がわかります。外の世界に一步踏み出すと、自分が今まで、いかに狭い考えや固定概念で物事の良し悪しを判断していたかを実感し、改める機会となりました。さらに広い視野を持つ事は、他者をより理解出来るようになることはもちろん、自分自信をより理解することもできました。日本で過ごしている間では当たり前のように使っている携帯がない世界で、過ごす日常では自分に余裕と時間ができ、自分自信を見つめ直す事ができました。私は、自分に1番充実感を与えてくれるものは、ゲームやテレビではなく、人と何か協働して物事をしていくことだとわかりました。そして非常に充実感や刺激を与えてくれた ISAP を、私来年度は実行委員としてこの活動を多くの人に広げたいと考えています。さらにこの活動を成功させたいという気持ちが糧となり、現在は日常会話や TOEFL などといった英語に焦点を当て努力しています。毎日がつまらない、やりたいことが見つからないといって怠惰な日々を過ごしてきた人生とは一変に、今、私は毎日に課題をみつけ日々努力しています。やりたいことを見つけることは、行動に変化を起こし、気持ちを前向きにし、自分に自信を持つことに繋がることを知りました。最後に、この素晴らしいメンバーと出会えたこと、学んだことを活かし日々の生活をより充実したものになるために努力したいです。

Friendship Night

文責：宇田川 稚菜

1. 活動の目的・目標

ISAP の活動期間にお世話になったすべての方々に感謝の気持ちを伝えること、日本とフィリピンのお互いの文化を共有し合うことでより交流を深めることを目的に行った。また、何よりも笑顔で楽しくを目標としている。

2. 活動内容詳細

日程：9月12日（水）

活動場所：Base

活動内容：①食の文化交流

②ファミリープレゼン

③キャンパープレゼン

④Mr. & Ms. コンテスト

⑤ディスコタイム

食の文化交流ということで、私たち日本人はカレースープと肉じゃが、みたらし団子を作りました。使う道具がいつもと違ったり、強い風が吹く中、外で野菜を切ったりとある意味バーベキューしている気分で楽しく調理しました。どの料理も上手にでき、味見しながら久々の日本食に興奮していました。特に今回はみたらし団子が上手にでき、完成したときにはみんなで感動しました。いざ、夕食の時間にフィリピン人に実食してもらったところ、みたらし団子のタレの甘塩っぱい感じが、口に合う人が少なく、少し残念でした。ですが、そのおかげで日本人はみたらし団子を食べ放題だったのでみんな喜んで頬張っていました。カレースープと肉じゃがはフィリピンの人にも好評でした。そしてフィリピンの人たちも美味しい料理を出してくれました。その一つにレチョン(豚の丸焼き)と呼ばれる最高のおもてなし料理がありました。この豚は昼間に自分たちで殺すところから行いました。これを行う意図としては、動物の命を頂いているということを実感し、命の大切さや有り難みを知ることです。初めて目にする光景で、精神的なダメージを受けている日本人が多くいました。しかし、このような経験をすることで改めて食の大切さを全員が感じていました。夜には、みんな、ホストファミリーたちと楽しくお話ししながら並んでいる料理を美味しい美味しいと言ってお腹いっぱい食べていました。

各家族の個性が溢れていて、みんな少し照れる姿を見せながらも短期間で練習した成果を見せ合いっこしました。子どもたちのダンスの上手さには驚かせられました。どの曲にするか、どういうダンスにするかなどもすべて子どもたちと一緒に決めて、夜ホームステイ先に帰ってから練習したり、日曜日にも練習したりと、より交流が深まるきっかけにもなりました。

た。さまざまなジャンルのダンスを見ることができて楽しかったですし、家族の仲の良さもすごく分かってとてもほっこりとした時間でした。

私たちは、One Direction の「Live While We're Young」の曲に合わせてダンスを披露しました。あまりダンスの練習に時間を割くことが難しかったですが、一人一人が自宅で自主練習をし、また国内合宿の時には、眠たい中、朝一で踊るなど、一生懸命練習しました。有名な曲ということで、子どもたちも口ずさんでくれたり、一緒に踊ってくれました。そのおかげで本番はみんな笑顔で楽しくノリノリで踊ることができました。フィリピン人メンバーの方々はクオリティーの高い、キレのよいダンスを披露してくれて、とても盛り上がりました。

このコンテストは Friendship Night の中でも特に盛り上がる企画で、簡単に言うと、一番イケてる男女ペアは誰かを決めるものです。フィリピン人と日本人の男女ペアで、ウォーキングやダンス、自己 PR 等を行い、三人の審査員によって選ばれます。どのペアも他の活動のすきま時間を使って打ち合わせしたりするなど優勝を目指して頑張っていました。フィリピン人の本気の度合いに初めは圧倒されましたが、男女ペアが人前でスウィート系のダンスをしたり、歌を歌ったりする経験は日本にはなかなかないので、とても貴重な機会になりました。

ディスコタイムのような雰囲気味わった経験のある日本人キャンパーは少なかったため、はじめは遠慮しがちな場面も見られました。ですが、賑やかなフィリピン人たちのおかげで、すぐにその雰囲気に打ち解けることができ、それぞれのホストファミリーと一緒に踊ったりしていてとても盛り上がりしていました。楽しすぎてまだこの時間が終わってほしくないという声も上がっていて、みんな満足気な様子でした。

3. 反省点・改善点

「感謝の気持ちを相手に伝えつつ、みんなとともに過ごす楽しい時間を大切にすること」が目的・目標だったので、その点については、全員が十分に達成できていたと思います。一つ改善点としてあげるとしたら、食以外にも異文化交流をもう少し増やした方が良いのではないかなと思いました。ダンスの時間が多い方が、より交流が深まり盛り上がるとは思いましたが、せっかくなさくさんの人が集まる時間なので、もっとお互いの文化交流を紹介し合ったら、さらに思い出に残る有意義な時間になるのではないかなと思いました。

4. 感想

本当にこの Friendship Night は楽しくて、みんなが笑顔になることができる素晴らしい時間でした。また、感謝の気持ちを伝えている時、ホストファミリーや子どもたち、フィリピン人メンバーなど色々な方々から温かいお言葉をもらいました。とても嬉しい気持ちになりましたし、改めて人とのつながり、感謝することの大切さを感じることができました。私は、Mr. & Ms. コンテストにも出ることで、ドキドキと楽しみな気持ちもありました。

が、打ち合わせや練習をするものが増えて不安な気持ちもありました。実際に限られた時間の中でみんなの前で披露することができるレベルまでもっていくのは正直大変でしたし、私のところのファミリープレゼンで選んだダンスも結構ハード系なものだったため、なおさら覚えることかありすぎて体が追いつきませんでした。ですが、こうやって人前でダンスをすることや自分をアピールする機会があったおかげで毎日たくさんの人と関わるきっかけにもなり、より交流を深めることができました。それに加えて、誰かと協力し合って一つのことをやり遂げることの嬉しさ大変さもともに味わうことができました。また短期間といえ、ボランティアをすることは決して簡単なことではなく、常に二週間は試行錯誤しながら活動に取り組んでいました。さらに、日本とは全く異なる不慣れな環境の中で、活動のやり方についても考えなければならず、悩むことや、しんどいなと思うこともありました。ですが、最後には関わった多くの方からの感謝の言葉に心が癒されました。特にこの Friendship Night では子どもたちの無邪気な笑顔をいつもより多く見られることができてほっこりした気分になりましたし、人のために何ができるかということをみんなで時間をかけて考えてきた甲斐があったなと実感できました。こんな貴重な時間を経験できたと言えるのも、この ISAP 活動に参加して、実際に現地の人と触れ合い、個人個人が少なからず成長することができたからこそだと思います。

国外活動写真（フィールドワーク）

Dumpsite



スモーキーマウンテンの様子



近くに住む子供たちと交流する様子



中には LOOB さんが支援している子供たちもあり、
LOOB さんの活動に触れる機会
でもありました。

City Tour



お祭りで使われる衣裳の試着体験



ミッションゲームでの市場訪問

国外活動写真（協働活動）

Nutrition lecture



給食前の授業の様子



給食を食べる子供たち

Weekend Activity



手洗いの大切さを教える授業を行う様子



実際に手を洗ってもらう様子

Work 活動



土と水を混ぜ、泥を作る様子



完成した渡り廊下での集合写真

国外活動写真（交流活動）

School Activity



オクラの種を実際に植える様子



子供たちと一緒にうちわを作る様子

Friendship Night



豚の皮をはぐ様子



Mr.&Ms. Friendship Night の様子

Homestay



ホームステイ先で子供たちと遊ぶ様子



ホームステイ先の家族とのお別れ

第 4 章

参加者の感想

第 9 回国際協働プロジェクト実行委員感想

第 9 回国際協働プロジェクト参加者感想①

第 9 回国際協働プロジェクト参加者感想②

実行委員の感想

文責：長谷川 麟

私にとって今回の ISAP は 2 回目の挑戦でした。1 度目の挑戦は 3 年前、大学 2 年生のときでした。初めての海外ということで浮足立っていたところもあり、実行委員という立場ではあったものの、先輩方に引っ張って行ってもらえばかりで、本当に実行委員という役職に見合った活動ができていたのか、またスタッフに対して納得のいくアプローチができていたのか、はっきりと自分のなかで反省ができないまま活動を終えてしまいました。

大学院にすすみ、学生生活のなかでやり残したことはないかと考えたときに、まさきに思いついたのが ISAP の活動でした。3 年前、自分の力不足で苦い経験となってしまった活動に対して、改めて向き合うことによって、さらに成長したいと考えたからです。

結果的に、今回の活動に実行委員として参加したことは自分にとって正解だったことを強く感じています。今回の活動では自分が最年長者であり、前回の ISAP とは大きく状況が異なりました。はじめは、歳の離れたメンバーと対等な目線で協働活動に取り組むことができるのか不安に感じていることもありましたが、しかし、実際に活動がはじってみると、むしろ、スタッフの活動に対する熱心な姿勢に圧倒されることもあるくらいで、あらためて自分の物事に取り組む姿勢について考えさせられることも多くありました。フィリピンでの活動では 3 年前に活動を共にした現地のメンバーとの再会や、ホームステイ先の家族との再会を通して、時間の流れや物事の移り変わりを痛感させられました。3 年前は内気で自信がなさそうな印象だった現地スタッフは、3 年間の LOOB での経験を経て非常に頼りがいのある青年になっており、小学生だったホームステイ先の子供たちは中学校へと進学していました。現地の方々との交流を通して、以前と比べて踏み込んだ内容のコミュニケーションが取れるようになっていたり、ひとつひとつの活動を俯瞰的に観察し、そのときに実行委員として求められる行動を進んで行ったりと、自分自身の変化にも驚きました。3 年という時間を漠然と過ごしてきたわけじゃない。自分もさまざまな経験を経て、一人間として成長しているのだと、大きな自信につながりました。

そして何より、実行委員として、また最年長者として一番やりがいに感じたことはスタッフの成長を一番近くで見ることができたことです。スタッフに対しては、本当に妹や弟のようにこの半年間接してきました。当然、楽しいことばかりだけではなく、厳しく接さないといけないこともありました。その分、スタッフひとりひとりに対する愛情も非常に大きなものになっていたと思います。そんなスタッフひとりひとりの挑戦に実行委員として微力ながら力になったことを光栄に思います。今後、彼らがさらに高いステージで活躍することを心から願っています。

参加者感想①

文責：植田 七菜子

私は今回スタッフとして ISAP09 に参加しました。ISAP の母団体である I. S. A. のプログラムの中で初めて参加したのが ISAP でした。

I. S. A. の新入生歓迎会の際、先輩から ISAP の活動を教えていただきすぐに応募することを決めました。迷いは何もありませんでした。なぜなら、自分の将来の夢の第一歩になる、大学生活のいいスタートになると確信したからです。私の将来の夢は教育を受けたくても受けられない子供たちを支援する女性リーダーになることです。この夢を叶えるためには大学生のうちから現地に行き、自分で体験することが一番だと思いました。当初はこの目標を叶えることしか考えていませんでした。しかし、活動を終えて学んだことは協働することの大切さと支援するというものの考え方が変わったことです。協働とはお互いの立場を同じ活動することだと始めに実行委員から教えていただきました。そのときはあまり意味が分かっておらず、気にしていませんでした。活動を終えてようやく協働の本当の意味を理解することができました。もちろん、自分の将来にとっても役立つ経験になりましたが、こちらのほうがより自分を成長させることができました。

ISAP の活動はグループに分かれて活動する場面がとて多くあります。現地の小学校でレクチャーをする School Activity や Nutrition Lecture、Work、ナバイス村での Homestay などたくさんの機会がありました。当たり前のことですが、どれも共通しているのは協働するということです。日本人メンバーの中でも学年や住んでいる地域が異なり、それぞれの思いや考えが違ったりするため、話し合いがうまくいかず、意見が分かれることもたくさんありました。また、国外活動ではフィリピン人メンバーと協働して School Activity や Nutrition lecture を行います。その際も、私たちの意見と彼らの意見が食い違い、うまくいかないこともありました。加えて慣れない英語でコミュニケーションをするため、なかなか思うように意見や思いが伝わらないことも多々ありました。しかし、それらを乗り越えて満足のいくレクチャーをし、100%の力を出し切れたのは、全員で協働することができたからだと思います。誰が上や下など関係なくフラットな関係でお互いのことを尊重し、話を聞いて理解しあうことではじめて協働することができるということを体感し学びました。これが私にとっての協働の定義であり、意味となりました。ひとりでもできるけれどみんなで行うことで自分が思いつかなかった、気が付かなかった視点からの物事を見ることができました。

また、フィリピンでの生活を通して「支援する」という見方、価値観が変わりました。貧しいから、先進国である私たち日本人が教えてあげる、支援する立場だと思っていました。私たちのほうがたくさんの知識や経験があるとも思って現地に行きました。しかし、実際は日本人である私が教えてもらう立場でした。そして自分の価値観で考えた支援は本当に役立

つ支援ではないと思うようになりました。このように思ったのはダンプサイトというごみ処理場の近くに住む住民にインタビューをし、衝撃を受けたからです。ごみ処理場といってもごみをただ積み上げて山のようにするだけの簡易的な処理です。なぜならフィリピンでは法律でごみを燃やして処理をしないといけないと決まっているからです。そのままごみが堆積しているため、辺りはごみが散乱しひどい悪臭でした。衛生環境も決して良いとは言えません。そのような環境下に住む家族のお母さんにインタビューをしました。ごみ山で生活する家族の中にはごみを拾うことで生計を立てる家庭もありますが、私が訪れた家庭ではごみを拾い生計を立てていませんでした。そして周囲の子供たちが学校に行かず、親の手伝いとしてごみ山でごみを拾うことは悪いことではないと言っていました。私たち日本人の感覚からすると学校に行かせず、働かせるなんて子供がかわいそうだと、教育は何があっても受けさせるべきだと思います。しかし、インタビューからわかるように彼らの教育に対する価値観は日本と全く違い、そこまで教育は大切なものではないのです。この意識の低さがフィリピンの教育に関する問題で改善しなければなりません。しかしその前に教育支援をするにあたって相手の教育に対する価値観を知って支援をしなければならないと思いました。自分の、日本人の価値観のまま支援や授業をしてしまうとギャップが生まれニーズに合ったものを提供できない、教育の普及や大切さは伝わらないとも思いました。これをうけて自分たちが作った School Activity や Nutrition Lecture が子どもたちにとってどんな意味があったのだろうかと考えるようになりました。今回は日本文化と食育の授業を各班に分かれて行いました。レクチャーを体験した子供たちに日本のことや日本とフィリピンの食事について知ってほしいという意図で作りました。3回のレクチャーではどの子供も楽しそうに話を聞いてくれてうれしかったです。しかしこのレクチャーが子どもたちにどのような興味・関心をいだかせ、影響を与えたのかはわかりません。ただ私たちの思いだけを伝えるのではなく、フィリピンの教育状態を知ったうえでレクチャー内容を考え、協働することを反省にあげ来年に生かしたいです。

今回経験したことは観光や留学ではできない活動ばかりです。そこが ISAP の一番の魅力だと思います。スタッフみんなが楽しかった、また行きたいと思えるような活動になったのは ISAP09 を支えてくださった実行委員の皆さんや LOOB さん、ホストファミリーのおかげです。本当にありがとうございました。そして来年は記念すべき 10 回目の活動です。今度は私が実行委員の一人として ISAP10 を盛り上げ、よいものを作っていきたいと思っています。

参加者感想②

文責：河瀬 理帆

私は今回 ISAP09 にスタッフとして参加しました、岡山支部 1 回生の河瀬理帆です。私がこの ISAP09 に参加した一番の理由は、海外に協働活動をしに行くことができるという点でした。私は大学生になるにあたって、大学 4 年間という限られた時間の中で出来るだけ色々なことを経験しようという目標を立てていました。特に海外に行くこととボランティアに参加することは時間に余裕のある 1, 2 回生のうちにしておきたいと考えていたところ、丁度 I. S. A という存在を知り、自分のやりたいことを同時に経験できる ISAP という活動に興味を持ちました。実際にはボランティアと協働活動は別物ですが、同じ立場に立って同じ目標に向かう協働活動の方に私はより魅力を感じました。さらに ISAP では多くの子供たちと触れ合えるので、子供好きな私にとってはぜひ参加したいプログラムでした。参加できると決まったときは、自分に知らないことや感じたことのないものを沢山経験して、たくさんの人と関わり合って自分の視野を広げたい、とやる気に満ち溢れていました。6 月から月に 1 回行われたコミスタ会では、最初こそ、初対面で住んでいる県も年も性別もバラバラな人たちと過ごすことに緊張していましたが、明るく優しく気さくな人たちばかりですぐにリラックスすることができ、コミスタ会が終わるたびに来月のコミスタ会が楽しみで仕方ないほどでした。もちろん School Activity の準備などを普段の大学生活と並行して行うのは大変でしたが、自分たちの伝えたいことややりたいことを一から作り上げていくのはとてもわくわくしました。

ですがフィリピンへの渡航日が近づいてくるにつれ、私の中で楽しみよりも不安の方が大きくなり始めました。私はそれまで海外に行ったことがなく、ISAP が初海外だったこともその要因の一つだったと思います。フィリピンに行く前に ISAP の OB、OG の方にお話を聞く機会もあり、大分不安は消えましたがそれでも正直とても怖かったのを覚えています。そんな気持ちでフィリピンに到着しましたがそこから約 5 日間、私はきっと良いとは言えない状態だったと思います。当時の私はそれほど自分の健康面も精神面も問題ないと思っていましたが、周りの先輩や友人からはよく大丈夫？と声をかけてもらいました。今思えば、初めての海外や日本とはかなり違う自然環境や衛生環境に自分でも知らないうちに疲れていたのだと思います。英語で話すことの難しさも常に感じていて、ただ決められた活動をこなすような日が何日か続いていました。

そんな私でしたが、あることをきっかけに気持ちを切り替えることができました。それは Work の作業中に 1 人の先輩とした会話です。詳しいことは省きますが、私はその先輩の言葉から得られたものが沢山ありました。その言葉を聞いて「今のまま ISAP を終えたら絶対に一生後悔する」と強く思い、気持ちを立て直すことができました。この他にも国内外活動を通して、私は ISAP09 メンバーの先輩方や友人と将来についてなど様々なことを話し合う

ことができました。このように、普段一緒にいる学校の友人とはあまり話さない話題や、話
しづらいことを相談し合えるのは ISAP の魅力の 1 つだと思います。

そうして吹っ切ることができた私は、今まで以上に活動に一生懸命になりました。とにかく
悔いが残らないようここでしかできないことを全力でしようと思い、積極的にフィリピン
人メンバーやホストファミリーや子供たちに話しかけました。フィリピン人は皆私の拙い
英語でも聞き取ろうとし、うまく英語が出てこない時も最後まできちんと聞いてくれました。
そうして自分が話すときは、私が聞き取れず聞き返したら何度も説明してくれました。
前までは英語で話すことを怖がってフィリピン人メンバーに情報を共有することを諦める
こともありましたが、でもそんな必要は全くありませんでした。フィリピンの人は皆優しくい
つでも私たちを笑顔で迎えてくれました。その温かさになかなか気づけなかったのは、それ
ほど私に余裕がなく、自分のことで精一杯で周りが見られていなかったのだと思いました。
そこからは、例えば School Activity で上手くいかないことがあってもその反省点をどう
したら改善できるかをしっかりとフィリピン人メンバーとも話し合っただけでアイデアをもらっ
たり、日本人側の意見を聞いてもらったりすることができました。そうすると School
Activity などの活動も順調に改善させていくことができ、達成感を感じられる場面が増え、
それが次のモチベーションや自信につながりました。ホストファミリーとのふれあひも驚
くほど増え、またそれがとても楽しく、日中は早く家に帰りたいと友人に嘆くほどでした。
そうして最初の 5 日間を取り戻すように子供たちやフィリピン人メンバーやホストファミ
リリーなど沢山のひと々と関わり思い出を作った私は、村を離れる日には朝から泣いてしま
いました。最初の頃の私からはとても想像できませんが、村から出発して村の人々と別れなけ
ればならないと思うと、止めようと思っても止められないほど泣いてしまいました。ホスト
ファミリーは温かくて、いつも笑顔で、楽しいことが好きで、たった 1 週間しかいなかった
私のことを家族として扱ってくれ、村の子供たちは無条件になつき何度も名前を呼び手紙
をくれる子もいました。フィリピン人メンバーは話しかけると常にこちらに向き、質問をす
ると丁寧に答えてくれました。特に一緒にホームステイをしたシスターとは将来のことや
恋愛話や大学のこと、ご飯のことなど毎日他愛のない話で笑い合いました。

私は今回の ISAP を通して、ゴミ山などのフィリピンの社会問題や衛生問題について考える
機会を得られたことも大きいですが、やはり自分の成長を強く感じられたことが一番の思
い出です。今までの私なら諦めてしまっていたかもしれないことも、こうして乗り越
え、沢山のものを得ることができました。もちろんそれは私一人の力ではなく、ISAP09 の
メンバーがいたからこそ得ることができました。変わるきっかけを与えてくださった先輩
をはじめ、私自身が気づいていない時から本当に自分のことのように心配し何度も声をか
けてくださった先輩方、ミスをしたらフォローをし、困っていたら引っ張ってくれた ISAP
メンバー全員に感謝をしてもしきれません。今回私は本当にいろんな人に出会い色々な生
き方や考え方を見て聞いて、多くの人の優しさや強さを感じましたし、自分のこれからを考
えるきっかけにもなりました。本当にありがとうございました。この ISAP09 はまさしく私

の人生のターニングポイントの 1 つだと思います。ISAP09 に参加できて本当に良かったです。

第 5 章

実行委員長全体総括

実行委員長全体総括

実行委員長全体総括

実行委員長として第9回国際協働プロジェクト(以下、ISAP09)に携わった一年を振り返りました。ISAPは、「協働を通じた実践により自他ともに成長し、広い視野をもつこと」を目的としています。しかし、昨年スタッフとして参加したISAP08の国外活動最終日の反省で、フィリピン人から「なぜ日本人はそんなに協力的ではないのか。」と問われました。振り返ってみると、フィリピンに到着した直後は、フィリピン人との協働活動に心を躍らせていたにもかかわらず、文化の違いに衝撃を受けるにつれて徐々に目的を忘れ、私達は“お客様気分”になっていたように思います。

そこでISAP09では「きっかけに溢れる協働」というテーマを掲げ、人との出会い、学び、成長のきっかけを沢山提供することを常に心がけ、1年間活動してきました。特に、目標設定と評価に力を入れました。これは、それぞれの活動に対して目標設定をし、活動後に評価することで、自分たちの活動を主観的かつ客観的に振り返り、目的を再確認するきっかけの提供です。これによって、全員が「今日は昨日よりもいい活動を！」という心意気で、2週間活動を続けることができたと思います。

一方で、やはりいくつか反省点も見られました。1番の反省点は、プランBを考えるまでに至っていなかったということです。雨にもかかわらずシティーツアーを行ったり、急な場所の変更に対応しきれず、うまく子供たちに遊びを提供できなかったりなど、もしもの状況を事前に考えられておらず、焦る場面が多々ありました。より充実した活動をスムーズに行えるように、いくつかの状況を想定し、それに合った計画を立てることが重要であり、今後改善していかなければなりません。

私は2年間ISAPに携わってきて、やはりISAPは社会的に意義のある活動であり、より多くの学生に経験してもらうためにも、この活動を継続していかなければならないと強く感じました。2週間の協働活動を通して、常に一緒に過ごしたフィリピン人メンバーやホストファミリーと濃い関係を築き上げることで、フィリピンを身近に感じられるようになりました。2018年9月15日に大型台風がフィリピンのルソン島の北部に上陸し、大きな被害をもたらしました。私たちが訪れた地域とは違いますが、フィリピンに災害が発生したと知り、気付けば私は情報収集をしたり、フィリピン人に連絡を取ったりしていました。ISAPを通して、現地に行き直接的にアプローチをすることができることはもちろん、その国や人々に関心を持つことで、活動後も自然と世界平和達成への第一歩を踏み出すことができるようになる、そんな活動であると思います。

来年10周年を迎えるISAPですが、今までの反省を踏まえ、更なる躍進を遂げ、関わるすべての人々にとって大きな学びと成長の機会となることを期待し、総括とさせていただきます。

2018年11月

第9回国際協働プロジェクト (ISAP09) 実行委員長 渡邊 果歩

第 6 章

第 9 回国際協働プロジェクト予算書
第 9 回国際協働プロジェクト決算報告

第 9 回国際協働プロジェクト予算書
第 9 回国際協働プロジェクト決算報告

第9回国際協働プロジェクト予算書

会計

支出内訳(案)

1.活動運営費

(単位:円)

国外活動運営費		
滞在費	現地交通費、宿泊費 17 人分	1,326,000
企画活動費	資材費	40,000
小計		1,366,000

国内活動運営費		
交流活動費	資材費、交流会諸費用	15,000
小計		15,000

2.実行委員会運営費		
交通費	遠方者への援助費	189,762
会議費	合宿宿泊費、会議室費	50,000
広報費	資材費、印刷費	10,000
小計		249,762

総計		1,630,762
----	--	-----------

収入内訳(案)

(単位:円)

参加費	17 人分	1,360,000
日本国際学生協会助成金		120,000
財団助成金		150,000
ISAP08 繰越金		762
小計		1,630,762
総計		1,630,762

第9回国際協働プロジェクト決算報告

会計

支出内訳

(単位:円)

1.活動運営費

国外活動運営費		
滞在費	現地交通費, 宿泊費 16 人分	1,313,000
企画活動費	資材費	6,745
小計		1,319,745

2.実行委員会運営費

交通費	遠方者への援助費	272,700
会議施設利用費		17,210
雑費	Wi-Fi ルーター使用代, 振込手数料	6,108
小計		296,018

総計	1,615,763
----	-----------

収入内訳

(単位:円)

参加費	80,000 円 × 16 人分 +*65,000 円	1,325,000
日本国際学生協会助成金		120,000
共立国際交流奨学財団助成金		150,000
昨年度繰越金	762 円+普通預金利息 1 円	763
小計		1,615,763

総計	1,615,763

*65,000 円：国外活動不参加者のキャンセル料

第9回国際協働プロジェクト（ISAP09） 事業報告書

発行責任者 渡邊 果歩（第9回国際協働プロジェクト 実行委員長）
編集責任者 市川 早紀（第9回国際協働プロジェクト 広報部長）

発行元 日本国際学生協会 国際協働プロジェクト